やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	29 / 2011 / 22-42
タイトル	座談会 新幹線駅前広場シンボル・ツリーが、何と北海道のトドマツに？
著　者　名	青森の自然環境を考える会

青森の自然環境を考える座談会’0803

新幹線駅前広場シンボル・ツリーが、何と北海道のトドマツに？

青森の自然環境を考える会

新幹線駅前広場に"北海道の木・トドマツ"植栽計画！

司　会　　「青森の自然環境を考える会」では私たちを取り巻く環境がいつまでも望ましい姿であって欲しい、できれば今よりもよくなって欲しいとさまざまな活動をしています。さきほど、座談会の本番に入る前にその辺から、「青森は自然が豊かだ、これは大きな財産だ、と言っている人が多いが、とんでもないつぎつぎと壊されてきている、それに彼らは気づいていないだけ」と話しているのが聞こえてきました。まったくその通りだと思います。とにかく自然環境というものの本質をわきまえないで、生き物というか生態系をモノを扱うように勝手に金を使って改悪しているのが多い。

きょうの座談会はいくつかのテーマを選んで、とくにそれは行政のやりかたに問題があると思うのですが、それを正してもらうためにも大いに語り合いたいと思います。座談会への出席を呼びかけたところ、このように13人の参加がありました。「考える会」の会員だけでなく、それぞれの面で専門的な知識をお持ちのかたがたも参加されております。

新幹線駅前広場の植栽計画。ここにシンボル・ツリーが植えられる。
（新青森駅舎デザイン委員会の報道発表資料から）

まずはじめに、2010年度に青森市まで新幹線がやって来ますが、その駅前広場の整備計画が進められています。ここにシンボル・ツリーを植えようという計画が進んでいます。その木は何かというと、どうもトドマツという北海道を代表するものになるらしい。この辺の報道はあまり詳しくされていないので県民の間で関心が今ひとつです。ただ、「東奥日報」の

この記事は、「青森の自然環境を考える会」が行った新幹線新青森駅のシンボルツリーに関する座談会資料を転載したものである。やぶなべ会報に合わせて改行位置・ページ割り・図版のサイズなどの体裁は変更されているが、内容そのものに関しては変更が無い。座談会は以下のとき・ところ・出席者で行われた。なお、この座談会記事中にある「編集者注」は、原本編集者による。

と　き:　2008年３月８日(土) ところ:　青森市本町・養老の瀧
出席者:　細井幸兵衛、岩淵功、中村林蔵、笹森耕二、五十嵐正俊、五十嵐豊、棟方啓爾、徳差幸広、小山内孝、山道忠郎、石郷岡總一郎、加賀谷康人、室谷洋司（司会）

明鏡欄には北海道の木というかシンボルを何で青森に植えるのと言った投稿が色々とあり、議論されています。

「考える会」の事務局長の棟方さん、その辺の経過から話してください。

棟　方　　私、気が付くのが遅かったんです。もうとんでもない話になっていました。それで「考える会」に問題提起をしたら、やっぱりとんでもない、と。まず、何で北海道の木が青森のシンボルにならなければならないのか。

たまたま気づいたのが暮れで、明けて親戚会でみんなが集まった時も話題になり、とんでもないことだと言うのが一致した意見でした。それから私、市の行政評価委員をやっているものだから市のほうに申し入れて新幹線対策課の担当課長に説明を聞きに行きました。それから何度か担当者に会って話し合いをしてきました。1回目が12月20日、2回目が2月14日。そして今日（3月8日）、この座談会の前に7人で説明を受けてきたんです。

「新青森駅舎デザイン委員会」というのがあって、今まで4回、開催していますがこれがそのときの報道発表資料です、回覧しますから見てください。今日は加賀谷さんも参加して、市当局との話し合いでもとくに発言をして貰いました。東京からわざわざ来ていただいて、本来であれば旅費を支給しなければならないんですが勘弁していただきました。（笑い）

また今日は、私からも頼み込んでエキスパートのかたが多数出席しているので、大いに話を出してください。

シンボル・ツリーとは何か！　4っつを考えて見た

司　会　　加賀谷さんには普段はメールなどでやりとりしていますが、なかなか顔を合わせたこのような機会がありません。まず、トップをつとめてください。

加賀谷　　もう、私からですか、それでは指名ですから。私は棟方さんの後輩で、高校の生物部で昆虫採集などをやっていました。ところが工学部に進んで今では建築事務所をやっています。ときには自然とは逆の立場になることもありますが、つきつめていくとすべてが環境ということになります。最近はボランティアで環境庁所管 新宿御苑のパークガイドをしています。都心で58ha？の大きな都市公園、ここはタヌキやハクビシンも生息しています。先日、タヌキの足跡を見つけました。100年を経過し、高さ30ｍ位の樹がたくさん生えているところです。東京が活動拠点ですが公園や樹木などをよく見て歩くのが楽しいですね。

今回のシンボル・ツリー問題ですが、駅前広場の一画の木が焦点になっています。公園とか広場というのは建築そのものではありませんが、駅舎を始め周辺の環境にも関係してきますから、関心事です。しかし、平成15年の時点でこの駅前整備計画のコンセプトは提言書として示されており、それが現時点でどのように具体化されているのかという視点でこのトドマツを見たとき、こりゃ何か変だぞと思いました。一般に建築に携わる人間は木材の知識はそこそこありますが、樹木については何種類か庭木を知っている程度。私はそこが逆転しているからなのかも知れませんが、たかがシンボルツリーながらデザイン委員会も含めこの決定に到った経緯や今後の成行きに注目してみたいと思いました。

まずそのシンボル・ツリーとは何か？と疑問を持ちました。これをどのように定義したら良いのか。ネットで検索しても、「我が家のシンボル・ツリー」とかそういったものがザッと出てく

るだけでした。英語ではLand Mark Treeばかりがヒットしてくる。それでシンボル・ツリーというのはひょっとしたら和製英語ではないか、という気がしました。そして行政もそれを概念的に把握していたものかどうか、これは判らずじまいでしたが…、それなら自分で考えてみようと思ったのです。恐らく4っつの要素があるのではないでしょうか。「シンボル・ツリー問題整理」というレジメを用意しましたのでご覧ください。要約して説明しますと、

1つは、〈A〉歓迎樹ですね。ウェルカム・ツリー、おもてなしの木とでもいいましょうか。

2として、〈B〉記念樹、メモリアル・ツリーですね、何を記念するかというと事業が完成した事とか、具体的にはさまざま考えられますが。

3は、〈C〉景観樹。ランド・マーク・ツリーとでも言いましょうか、景観とか造形的なものかも知れない。デザイン委員会の人が主に話し合っていたのはこれでしょうか。

4は、〈D〉地域象徴樹のようなもので、これが恐らくシンボリック・ツリーの必要条件で、「考える会」や皆さんがトドマツよりはヒバのほうがいいよと、これを問題にしているのではないかと思います。

恐らく市のほうでは、こういう整理をするとか概念を持とうとしなかったのではないでしょうか。私もさっき、市当局に「シンボルツリーとは何だと思いますか？」と質問しましたが明解な答えがなかった。恐らくデザイン委員会では歓迎樹的なものとか景観樹的なもの、それについては大分、考えたふしがありますが、地域象徴樹的な要素についてはあまり踏み込んでいなかったのでは、と思うんです。

棟　方　　私は、今の視点が一番最初になければならないこと。今日の座談会では、これをハッキリ踏まえて考え方を出して欲しい。

今日、新幹線対策課課長と話して分かったのが、デザイン委員会は、シンボル・ツリーというものについて深く考えていない、ただ漠然と当局が出した樹種を比較して何回もデザイン委員会を開いてやってきたのではないか。歓迎樹なら歓迎樹とすればよい、景観樹なら景観樹とすれば、私たちはそれで納得するんだ。この辺をあいまいにしているから、私たちは郷土の樹種というものをまず考える。ところが出発点でデザイン委員会にはそれがなかった。そのほころびをどう縫い合わせていくのか。いずれにしても、トドマツじゃどう見ても納得できません。

岩　淵　　その周辺に昔から大きなトドマツがあって、それをシンボルにしよう、というのであれば一応は分かりますがね。

それから強いて言えば、この話をすれば今日のテーマからはずれてしまいますが、木を植えるということは50年、100年と先を見ながら植えるものですよ。天皇（昭和）陛下を見なさいよ、決して大きい木は植えません、小さい木を植えるんです。そこにはその時の記念樹の標識を建てて何時、何ためにと説明しています。皇后陛下にいたってはタネを蒔いているんです。それがどこの木か分からないものをかき集めてきて植えるというのはおかしい。新幹線が来たからといってそのとき、そこに木がなくても良いのではないですか。極論を言えば記念樹とはそういうものです。

加賀谷　　すぐに景観樹として効果を期待したいというのは、せっかちな今日のことですから理解できなくもないけど、いきなり大きな木を植えるという行為では、岩淵さんが指摘される木を育てるという意味や、歴史性と言ったものが消えてしまう。それに薄々気がついているからシン

ボルツリーといった意味ありげな表現をするんじゃないでしょうか。しかし、何の由来も無く、この木は何の木?と言って、土地との関係もはっきりしないような木では、意味のある場所の木としては面白くない。

常日頃、私はデザインとはモノに意味を組み込んだり、価値が生ずる道筋を考えることだと思っています。ですから私は今回のトドマツの決定には委員会の役割放棄に近い印象を受けています。

司　会　役割放棄ですか、これデザイン委員会の方が聞けば、一言もふた言もありそうですね。出来れば尋ねて見たいものですね。

加賀谷　そうそう、阪神淡路大震災の五年後、天皇陛下が歌会始で詠まれた歌を思い出しました。こんな歌です。〔園児らと泰山木を植えにけり　地なゆりし島の春深みつつ〕淡路島での植樹祭の感慨を詠んだものだそうで、世紀の変わり目ということもあって、植えられた泰山木は復興の強烈なメッセージを発する木となった訳です。記念樹にはこんな可能性もあるんじゃないでしょうか。もちろん、良く作用すればです。

"青森県の木"はヒバ　… 皇居東御苑の47都道府県の木のコーナー

笹　森　先ほどのシンボリック・プレフェクチュラル・ツリーですが、そこには青森県のものもあるんですか。

加賀谷　あるんです。青森県のものだけでなくて47都道府県のものが全て植えられています。そして、これがどういう木であるのか標識がついている。スギとかトドマツとか、ヒバについては青森県の…などと。その全体の説明としてシンボリック・プレフェクチュラル・ツリーと書かれた配置図があるんです。色々あって面白いですね。日本という国は、自然も、人の木々に対する感性もいかに多様であるかわかります。

司　会　当局やデザイン委員会の方々もこういうのを見て青森を象徴する木を考えてくれればよかったのではないでしょうか。……

加賀谷　そうだと思います。何時でもご案内、いや解説もさせていただきます。

棟　方　都道府県の記念樹としての木のコーナーなんです。私も上京したときよくそこに行くんですが、加賀谷さんからも前に写真を送って貰いましたね。3本あるんですが1本はちょっと、あとは下枝がよく張ってあの都心でずいぶんよく育っています。

加賀谷　下枝がよく張っているというか、良く言えば個性のある木が一本ありますね。でも愛らしいものですよ。

笹　森　それを植えるときに青森県のどっかに問い合わせをしたんでしょうか。

棟　方　それは、最初から青森県の木はヒバなんだから誰にも聞く必要はない。誰が言おうと皇居の東御苑に青森県の木として植えて立派に育っているんだ。

笹　森　全国的に認められているということですね。

棟　方　私は市の担当課長と2回目に会ったときに、東御苑にヒバが植えられていて青森県の木として立派に育っていますよ、あなたがたはそれが分かっているんですか、佐々木市長に聞いて見るよ、といいました。そういう立派に生長している事実があるのに、トドマツというのは

あまりにもお粗末ではないか、と。すると全然、彼らは分かっていないわけ。それで不思議なことに、ヒバは候補にも入っておらず委員会で討議した形跡もないんです。

司　会　　アオモリトドマツというのは、いや間違い、トドマツですね、それはどのようないきさつから出てきたんですか。

棟　方　　トドマツは雪国をイメージする木だというんですよ。そしてアオモリトドマツに較べてメンテナンスが容易であるとも。大きく言うとこの2つ。

小山内　　今日、私もしゃべってきましたが（市当局との話し合いで）、青森への新幹線というのは間もなく途中の経過駅になるわけ。雪国、北国といっても間もなくもっと北の北海道の函館なり、さらには札幌になるわけだ。そういうことでトドマツがシンボルなんて、むしろそっちの木を選ぼうとしているのではないか、と。（笑い）

皇居東御苑ヒバ 2008. 2. 1 撮影 加賀谷

皇居東御苑の47都道府県の木のコーナー。
シンボリック・プレフェクチュラル・ツリーの標識があり、青森県の木・ヒバがよく生長している。

要するにシンボルとしても、これが青森のシンボルとはちょっと意味が違うし、また近くにある三内丸山遺跡を考えてそのイメージでもない。それは別のものになるんですよ。もちろん委員会は三内丸山のイメージも何も持っていませんね。さっき、シンボル・ツリーの定義について何かと考え方がありましたが、市のほうにはそれが何もないものだから右往左往してしまっている。

加賀谷　　そうなんです。明日から新青森駅というのは東京～札幌間の一通過駅でしかないという現実を見据えていない。JR東北、北海道、相互乗り入れですから、東北新幹線という言葉もあまり意味を持たないかもしれません。

北国とは、東京以南を意識しての言い方ですが、そうだとすれば盛岡以北が全て北国で、青森はその中心だという考え方でもいい。でもそれでトドマツだというのも少し強引です。北海道と北東北ではまた気候風土が違うわけで、スタンスが伝わる形で青森の独自性を表現するのが、駅前周辺整備の大きな目標のはずなんです。トドマツではスタンスも郷土愛も見えてこない、だから歓迎樹には絶対なり得ない。

岩　淵　　北海道のシンボルを植えて、これから北海道に伸ばしますよ、というシンボルなんでしょうか。（笑い）

五十嵐（豊）　それじゃ、北海道の玄関口だということになるね。

加賀谷　　それなら広場の北側に北海道のトドマツを植えて、南側に東京都のイチョウを植えればいい。

笹　森　　イチョウは、東京のシンボルですね。

棟　方　　国会のまわり全部がイチョウの木。雌の木、あれから落ちる実は臭くてたまらない。

司　会　　確かに臭いが、イチョウはイチョウで東京は一貫してそれでアピールしている。何にでもイチョウのマーク、ゴミを集める車にも、地下鉄にも全部、それ。シンボルにした以上は、そこまで徹底しないと。青森県の場合、ヒバになってみたりトドマツになってみたり、そのときになってコロコロと変わっている。

細　井　　全国の電話帳をよく見ると、各都道府県のところに県の木とか鳥とかが載っているんだ。ケヤキとかイチョウとか、青森県のところはちゃんとヒバになっています。

五十嵐（正）　木とか花について各都道府県では全部、決めているんだよ。

笹　森　　確かに県の木は何かとか、市の木は何かと、それから出発するのが大事だと思いますね。

司　会　　市とか町にもありますね。青森市の木はアオモリトドマツで、花はハマナスですね。

五十嵐（正）　花はハマナスになっているが、あれは自生しているところは浜辺なんです。それを方々に植えているものだから大変です。森の広場にも鶴ヶ坂から大釈迦へ行く峠とか、ヤブがぼうぼうになってしまうと管理が大変で見る影もなくなってしまっている。植えるだけでなく、その後のことも考えてやらないと見苦しくなる。邪魔っけ、正直いって。

徳　差　　青森公立大学の構内の道路際にも植えています。

司　会　　青森空港から青森市街地に下りる沿線にもずっと植えている。年に数回、下刈していて管理費も相当かかっているでしょう。

中　村　　手入れするのが大変。森の広場のハマナスは、管理にずいぶん苦労しています。

小山内　　浜辺でないからそういうことになるんです。この辺は専門家の意見を聞かないと高くついてしまう。

青森市の"ウトウ"が、いつの間にか"フクロウ"に … パブリック・コメントの必要性

岩　淵　　木の話の途中で申し訳ないが、鳥の方も問題ですよ。シンボルというか青森市の鳥は、前はウトウでした。それをつぶして、ついこの前、フクロウになってしまった。政策的にそうしたんでしょうけど伝統のあるウトウをつぶすとは。

五十嵐（正）　ウトウがもういなくなってしまったからでしょうか。

岩　淵　　ウトウというのは青森がもと善知鳥村だったとか伝統のあるもので、先人がよく考えたものでした。この鳥は確かに少ない鳥で、徳川時代にもうあまりいないということが分かっていたんです。それが、外ヶ浜のウトウをという所望があって、わざわざ三厩のアイヌに頼んで小島から取り寄せ、幕府に献上しています。このように歴史的なものから"青森市の鳥・ウト

ウ(善知鳥)"になっていたわけだし、それを無視して変えてしまうとは、ね。

小山内　ウトウは今でも海に少ないですが来ますよ。北方の島にはいっぱいいます。惜しいことですね。

司　会　たまたま浪岡のリンゴ園にフクロウが巣をつくっていた、それを一生懸命に保護するひとがいて浪岡の名物になっていた。青森市が浪岡町と合併することになり、浪岡のひとたちの気持ちを思ってそれにしたんでしょうかね。

青森市のホームページを見ると〈フクロウ・市の鳥。世界諸国で幸せを呼ぶ鳥(ラッキーバード)として親しまれ、浪岡地区のリンゴ園を中心に生息〉とあります。フクロウは何も浪岡を特徴づけるものではないし、こじつけというか違和感を感じさせる説明ですね。

笹　森　確かにこれはおかしい。一生懸命保護をしている人がいます。また青森市在住の彫刻家の人も一緒に色々とやっていますが…。

司　会　ウトウからフクロウになったとき、なにか市民の声とか議論とかがあったんですか。

岩　淵　突如として広報に告示されただけで、そのままになったんじゃないですか。

棟　方　パブリック・コメントは大切にしたい。今回のシンボル・ツリーでは、このままではパブコメが全然なされないままトドマツに決定ということになる。デザイン委員会のトドマツは最終決定ではなく一つの案として更に話し合って決定すべきだと思う。市長は前にこういうことがあれば「考える会」と話しますよと言っていたんですが、それが未だ、活かされていないです。話し合う必要があるのかもしれません。

市のトドマツ選定 … 雪国イメージ、メンテがやりやすい
専門家 … ヒバは準備すればじゅうぶん可能

徳　差　私は市の広報紙は注意深く見ています。それには重要施策のときは市民からよく意見を聞くようになっている。広報にちゃんと書かれている。だから、今回のシンボル・ツリーの場合は、そのシンボルが、たとえばクリスマスのときに色々なモノを飾るとか、あるいはライトアップするとか、そういうふうな感じで、市民のかたがたいかがですかというような…。それとはちょっと違うのでしょうか。

加賀谷　ライトアップならまだわかりますが、イルミネーションはなしにしてもらいたい。

棟　方　たかがシンボルだけど、されどシンボルで、シンボルの問題だからそのままにしておくわけにはいかない。しっかりした考えでもっていかないと。

加賀谷　ちょっと補足したいんですが、さっきシンボル・ツリーで考えられることを4つつあげました。何を象徴するかということ、それは植物学的なこともありますが、それ以前に情報ということだと思います。北海道の木はトドマツで、青森県の木はヒバである。樹種というのは、そのことを外に発する情報だと思います。どうもそういう視点がない。

棟　方　私、今日の市との話で最後に言ったのは、ヒバは残念ながら全国的にはヒノキに負けているんだ。どうしてもそうなってしまう。ヒノキ舞台に代わってヒバ舞台というのも出てきているが、一般的にはまだヒノキ舞台だ。だからこれを好機としてシンボル・ツリーをヒバにして全国にヒバを発信したらどうか、というのが私の考えなんです。

ヒバをよく理解していない造園業者の意見を鵜呑みにするとどうしてもメンテの簡単なトドマツになってしまう。ここで、メンテが難しいと考えるんであれば、細井さんに随契でヒバをやらせればできる、入札でなく。どうですか。

加賀谷　ヒバを発信するとは大賛成です。ヒバ舞台、これは木材。葉っぱが付いた樹木のヒバとセットで考えなければ面白くない、だから駅前は見本だということでしょうか。

岩　淵　ヒバがダメだということを十分、検討したんですか、ちょっとおかしいですよ。

細　井　私はもう造園業をやめてしまいました、その話しは嬉しいけど。（笑い）

ただ、ヒバは私がずっと見てきましたが、まず第一にシンボル・ツリーというのは小さいのではダメ、でっかくないと。2mや3mではシンボルにはならない。これでは通用しない、大きい木です。こういうものをやるには5、6年前から決めてかからないとダメだ。それでもヒバは容易でない。

青森県全体の造園業者が伊勢神宮にヒバを寄贈したことがあった。五十鈴川のあたりに植えています。そのときのことですが、記念樹もそうだが業者としては非常に名誉なことです。青森から絶対、ヒバを持っていくということになった。ヒバの木があって、枝がこうあると、根はもっと何倍も広く張っています。その辺を考えて準備しないとみな死んでしまうんです。伊勢神宮にもっていったのは相当の大きい木で、5～6年前から作業をしたはずです。そうすれば出来ます。

[編集者注]
01.伊勢神宮のヒバは青森県全体の造園業者が寄進したもので、座談会で細井幸兵衛氏が言及しているので参照されたい。樹高約10m。
02.故淡谷悠蔵邸のヒバは、あすなろ国体でヒバの苗木が希望者に配布され淡谷悠蔵氏が孫の誕生を祝って植栽した記念樹で、シンボル・ツリーの移植候補として期待される。尚あすなろ国体（第32回国民体育大会）で作成された記念章は、制作者三国慶一でその背景にはヒバが5本配置されている。
04.マエダ店のヒバは、「県の木・ヒバ」の表札が付けられている。

05.浄満寺庭園のヒバは、樹高13m以上。

1年目は2割ぐらい根を切る。そして2年目は、とやっていく。このくらいの根であれば切られたあと、その周りにボール状に新しい根が出来ます。ルート・ボールですね、それを繰り返していくんです。ここまでやれば何処に持って行っても大丈夫です。ただ、そこまでやるには時間が必要なんです。

笹　森　　小山内さんのビオトープの近くに持って行ったヒバは大きかったですね、2.5mぐらい。前の年に根を切って翌年、トラックで運んだ。立派に付きましたよね。そんなに大きくなければ出来ると思うんですが。シロウトがやって、たまたま付いたんでしょうか。

棟　方　　細井さんの例は、伊勢神宮に行くんだから絶対植えた木は枯らせないという絶対条件がある特殊な場合だと思うな。私も緑化事業でヒバの移植を体験したがそんなに難しいとは思わなかった。現に市内のあちこちにヒバは庭園樹としてすくすく育っていますね。

小山内　　それは分かります。ただ伊勢神宮まで持っていくんではなくて、青森に青森の木を植えるんです。いくらかは短くできるんではないですか。

細　井　　ヒバは園芸樹としても非常に良いんですよ、ただ難しいということは考えておかないと。ヒバは種からやると1.5mぐらいになるまで10年はかかります。ヒョロヒョロだとサマにならない。シンボル・ツリーとなれば初めからその辺を考えてやらないとダメです。

加賀谷　　皇居東御苑の各県の木と比べてヒバは格好良いほうだと思いますね。4m弱ですが、何より色艶がよい葉は独特で、品格が感じられる。ヒバは枝葉が大きいので、一般家庭の庭

09.新城Cのヒバはずば抜けて樹形の整った樹である。

[編集者注]　営林局OBを中心として、ヒバは群状植栽が適していると言われているが、これは、当時の松川恭佐による「森林構成群ヲ基礎とするひば天然林ノ施業法」の影響であり実際は、単木でも良く育つていることが市内の現状から理解できる。
　上の写真にある柳川庁舎前庭のヒバは、青森営林局管内である青森県・岩手県・宮城県三県のシンボルとしてそれぞれヒバ・アカマツ・ケヤキを選定・植栽したものであり、奇しくもヒバは、柳川庁舎のシンボルツリーとなっている。植栽は松川恭佐理論の群状である。

では如何なのか…。でも公園樹、景観樹としてはそれがかえっていいんじゃないでしょうか。此方ではヒノキをよく見かけますが、枝葉が細かいのでヒバに比べると何かチマチマして頼りない。駅前にヒバがあったら絶対に新鮮だと思いますね。

徳　差　　新幹線が来るのはあと3年でしたか。すると少なくとももう作業を始めないと。

岩　淵　　ヒバで大きいのを何本もとなるともう難しいので、寄せ植えという方法もありますね。これは考え方だと思う。

細　井　　ヒバは「夢の森」にちゃんとあります。1本だけでなく何本もあります。ずっと森みたいにあります。それがシンボル・ツリーに適当かどうかはわかりませんが。

加賀谷　　確かに計画では一本だけのようで、その木が容姿端麗ならば申し分ないと思います。容姿端麗の木を植えるということは、技術を示すことにもなり、立派な記念樹、景観樹としての要求は満たすことになります。しかし、今回の場合、技術以前の樹種選択という計画段階が問題なのですから、今理想とされるヒバの可能性を探るのならば、どのように配植したら見

栄えがするかを考えるのが現実的ではないでしょうか。何となく円錐形の整った大きな木が一本植えられているというイメージに縛られることはありません。これはデザイン委員会にも提言したい。記念樹的要素はあるけど100パーセントではないんです。むしろ他の歓迎、景観、象徴という殆どを占める要素からは一本だけ立派なものを植えなくてはならないという必然性が見えてこないのではないでしょうか。三本でも五本でも、その数に持たせる意味を考えるとかすればいいです。それもデザインでしょう。

徳　差　　多少、小さくてもよい。私たちが遠くからきた人たちに、これがヒバなんだよ、それで山へ連れていって本物を見て貰うんだ。

五十嵐（豊）　あと20年たったら、またお出でくださいという言い方もありますね。（笑い）

細　井　　そこにヒバで作ったあずまやなどを置いたりして。そうすると宣伝になりますね。

五十嵐（正）　駅に降り立って改札を通過するとそこにヒバの香りがプァーとしてくれば。それぐらいの演出をしないと。

岩　淵　　昔、古間木の駅舎はシラカバで、あれは非常に印象的でした。そこの宣伝にもなっていたと思います。ヒバ材で施設を作るのも、青森のシンボルでしょう。

笹　森　　これからは、観光でも何でも史跡とか色んなものがないと成り立たない。どこにでもあるようなものではダメです。大型のレクリエーション施設を作っても、これからははやらないんですね。

加賀谷　　そうです。新幹線というのは大きなシステムですから、つながっているところはみーんな同じ。均質なんです。だから駅前空間というのは単なる地域との接点というだけでなく、関所のような意味もあるかもしれません。シンボルツリーはその関所の地域の側に立っているのでしょう。だから、やはり在来種がほしいのかな。

選定はデザイン委員会　… たたき台は造園屋？事務当局？

司　会　　先ほどから回覧している検討会の資料が、私のところに回ってきました。オールカラーのデラックス版ですね、行政はお金持ち。そのページをめくって見て、もう一度前に戻るような感じですが、左側に検討会に出したシンボル・ツリーの候補樹種があって、右側にさまざまな項目が…。

　樹種の名前は、アオモリトドマツ、トドマツ、オオヤマザクラ、クリ、ユリノキ、メタセコイヤ、ヒマラヤシーダ、ほかがあります。右方向の項目には耐候性とかつまり温度でしょうか、それに病気などとさまざまな耐性があって、各項目に○、△、×をつけて採点して、最終的にトドマツに◎を付けています。この候補樹種は誰が検討材料として決めたんですか。

棟　方　　それは事務当局でしょう。そして明らかな間違いが実に多いです。

司　会　　まず候補樹種に問題があります。表では"在来種"に随分こだわっていますね。そしてトドマツはこの表からすると在来種だと…。まずこれがおかしい。2006年3月に青森県が「青森県外来種リスト」をまとめ、維管束植物として318種を指定しました。話がちょっと難しくなりますが、この外来種の定義は「明治時代（1868）以降、生物本来の移動能力を超えて国外または国内の他の地域から青森県内へ、人為により意図的あるいは非意図的に導入された生物」としています。

シンボル・ツリーの候補樹種と検討結果一覧表。（新青森駅舎デザイン委員会の報道発表資料から）

シンボルツリー樹種選定検討結果

検討項目 ＼ 樹種	郷土種（前回記載は在来種（但し）	耐候性	耐病性	耐害虫	維持管理	評価	成長度	美観
アオモリトドマツ	○	○	×	×	×	×	遅	常緑針葉樹、狭円錐形
トドマツ	○	○	△	△	○	◎	遅	常緑針葉樹、狭円錐形
オオヤマザクラ	△	○	△	△	△	△	普	落葉広葉樹、歪形
クリ	△	△	△	×	×	×	遅	落葉広葉樹、球形
ユリノキ	×	△	△	○	○	△	早	落葉広葉樹、卵形
メタセコイヤ	×	○	○	○	○	○	早	落葉針葉樹、円錐形
イチョウ	×	○	○	○	○	○	早	落葉広葉樹、円錐形
ドイツトウヒ	×	○	○	○	○	○	普	常緑針葉樹、狭円錐形
ヒマラヤシーダ	×	○	△	○	○	△	早	常緑針葉樹、円錐形

トドマツの場合、確かに外来種でカテゴリー"Bd"（国内他地域からの定着外来種Bランク）に相当するのではないかと議論されたようですが、"人工植栽"だからはずそう、青森県内本来の生物多様性にも影響がないだろうと、この318種には加えられなかったようです。お馴染みのイタチハギとかニセアカシアなど72種は"Af"（侵略的定着外来種）として最高位にランクされ駆除をどうするか、などと頭を痛めているんですよ。

棟　方　　そこなんです。私も念のために東北大学の大学院教授をやっている方にメールで確かめました。白神世界遺産のブナ林動態調査をされ森林生態に詳しい研究者ですが、返事はつぎの通りで、検討会のたたき台になったこの表からして問題が多いです。

「資料にある選定結果の表を見ましたが、これはひどいですね。在来種かどうか、という点で、トドマツが○で、オオヤマザクラとクリが△というのは、まったくおかしいと思います。現在の定義では、日本の国内でも自然分布にないものは、「移入種」と定義されています。

トドマツはその意味では、明らかに「移入種」で、オオヤマザクラ、クリが△評価なら、まちがいなく×と評価されるものです。

青森には自然分布しない樹木をシンボル・ツリーにするというのは、大阪のだんじり祭りが日本の祭りだからといって、シンボルにするくらい変なものだと思います。やはり青森は、ねぶたでなくてはならないし、ヒバや青森トドマツでなければならないと思います。

私の意見としては、アオモリトドマツは栽培上の問題もあるようですし、ヒバが良いと思います。ヒバは、これまでの青森の人たちに長い間使われ、いろいろな歴史的建築にもに

使われてきた樹木ですし、寿命も長く、木材も強固で腐らない、もっとも青森の気候や風土を象徴するような樹木に思えます。ぜひとも再考してほしいですね。」

五十嵐（正）　シロウトばかりが寄り集まってやっているんじゃない。

笹　森　　それにはヒバが入っていなかったんですか？　もしヒバが入っていたとすれば、各項目の評価はどうなりますか。

細　井　　全部に○がつきます。

棟　方　　だから、初めにヒバが入っていれば問題がなかったんです。全部に○が付いて結果は◎になるんです、ごくごく自然に。

加賀谷　　この在来種という定義がなんで重要なのかというところが難しいんだと思います。この表は植物学上の定義を捻じ曲げていると断言できます。しかし今日の説明会で当局は「在来種とは植物学的な意味合いと、イメージとしての在来性を併せた考え方」との発言をしていました。謎が解けたと思ったと同時に、そこまでして在来種という表現を使う発想に呆れもしました。トドマツが良いんだったら、在来種ではないが如何かと委員会に諮ればいいだけ。

司　会　　市当局なのか委員会なのか、いや市当局の方でしょうね、本来の意味でないもうひとつの「在来種」という用語をつくった可能性がありますね。この議論はややこしくなりますので、この辺にしておきましょう。

[編集者注]　外来種とか移入種などの用語が使われているが、国（環境省）としては両者を同義語として扱い、外来種問題に対処している。また、帰化植物とか帰化動物と言った用語もあるが、これは人間の媒介で渡来した植物あるいは動物がその土地の気候・風土になじみ、自生・繁殖するようになったもので、外来種（移入種）のうち国外起源のものと同義語ということになる。

司　会　　青森市のホームページを見ましたら、「青森市新青森駅周辺地区整備等検討委員会」というのがあって、これは平成15年6月30日現在の委員名簿なんですが13人います。　委員長が弘前大学の教育学部教授、委員には県の都市計画課長、市の新幹線・交通政策課長、JR東日本秋田支社総務部長、日本鉄道建設公団盛岡支社計画部長、さらに県りんご協会専務理事、県建築士会女性部会副部長、あおもりデザイン協会副会長、国際芸術センター青森館長、民間放送局放送部長、ホテル社長、フリーアナウンサー、大学の商学部教授などが名前を連ねているんですね。

これには環境とか植物などといったものについて、キチンとした判断ができる人が見あたりませんね。この下部組織にデザイン委員会があるのでしょうか。

棟　方　そう、上下関係は分かりませんが正式名称が「新青森駅舎デザイン委員会」で、平成18年11月16日現在の名簿では13人になってますね。

委員長は弘前大学の同じ人、委員も半分以上はダブっています。県とか市、JR、鉄建公団、国際芸術センターなどは検討委員会メンバーになっている人の下位の役職がなっています。これに新たに三内丸山縄文発信の会事務局長とか市景観デザイン委員会会長、地元石江のまちづくり会会長が名前を連ねています。

こっちの方も、委員の主な役職から見て植物の生理・生態に詳しいというか専門家は見あたりませんね。だから、事務局が案をつくって、それをデザイン委員会で検討を加えたことにして結論を出すという仕組みでしょう。ただし、決まったことの全責任はデザイン委員会に

ある、ということになります。

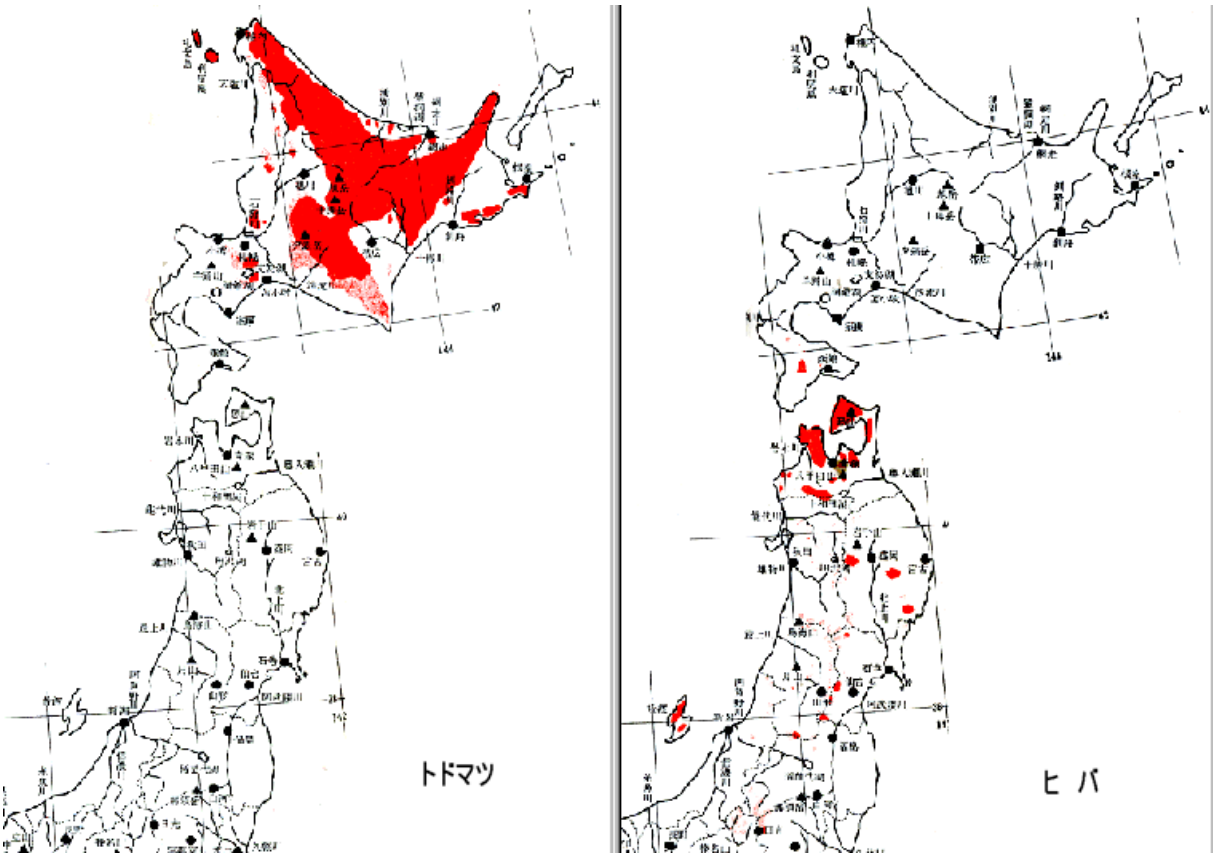
岩　淵　　ほとんど樹木・造園に関してはシロウトでしょう。それで事務当局にこの木は面倒ですよ、と言われれば、委員はそうですかと都合の良い方に決まるんですね。

司　会　　棟方さんが、全責任は委員会と言いましたが、それでは酷な話ではないですか。委員会のメンバーは大変ではないですか。最近よく思うんですが、行政は何かをやろうとするとき事務方が案をつくって、それを審議会というか検討委員会をつくってそれに諮る。何とか会では2、3の質問が出て、あるいは大きな変更をもたらさないような提言があってそれを取り込んで成案にしてしまう。

徳　差　　現在の行政では各種委員会委員を選考するための委員会が必要だと切に感じますね。

五十嵐（豊）　やはり委員会の責任は重大だと思うな。今度のシンボルツリー選定然りだが、案外デザイン委員は、自分たちの選定は最終案とは考えて居なかったのでは？

加賀谷　　その可能性はありますね。市のトドマツの提案に対し、それが本来言う在来種でないことはわかっているし、現に以前反対意見を言っている。一般からの疑問視も予想できることです。たしかデザイン委員会の北原委員長は、市の「在来種定義」に対し、説明があれば検討する、と述べたとか。これは説明が無ければ検討しない、ということでしょうか。この歯切れの悪さが全てを物語っているように思います。



日本におけるトドマツとヒバの自然分布

[編集者注]　デザイン委員会が選定したトドマツは、青森県には全く天然分布していない。ヒバは、全国の現存量のおよそ7割が青森県の津軽・下北両半島に存在しており、まさに青森県の郷土樹種と言えます。太宰治も小説「津軽」で青森県の特産にふれ、それはリンゴではなく「ヒバ」であると言い切っている。

司　会　　今日のテーマにしても、また都市計画にからむもの、景観づくりのガイドラインなどと、これからは環境に配慮しないと将来に大きな禍根を残すことになります。棟方さんは、市の行政評価委員になっていますね。この辺を強く要望してくれませんか。それで、肝心のシンボル・ツリーですが、トドマツということでもう決まってしまったんですね。

最終決定は特別委員会？　… でもないようだ。ではどこで？

棟　方　　いや、これまで担当課長と数回、会って説明を聞いてきましたが、そのときは特別委員会の承認を得たと言っていました。ところが今日の話では彼らはちょっと迷っている。特別委員会が、最終的には必ずしも結論を出すのではないといったニュアンスなんです。これは、私たちの熱意というか説明が効いてきたようです。担当者はこれから佐々木市長に話すのかも知れない、あるいは私たちから市長に直接、話すということも視野に入れながらやっていかなければ、と考えているんです。特別委員会というのは、市議会議員が構成メンバーです。

それから、決定の過程でデザイン委員会とか特別委員会とかありますが、ここはやっぱり市民のなかから専門の知識をもった人を何人か入れなければダメです。それと、問題の性質からもパブリック・コメントの洗礼は絶対ひつようでしょう。そうすればこのような問題が出てこないんです。市の事務当局は造園屋あたりに聞いてやっているだけではないですか。

細　井　　それ、造園屋というのはほとんど知識を持っていません。ただやり易くて金になれば良いんだ。トドマツなどの木は買ってくれば間に合う、苦労をするなんてとんでもない。

棟　方　　そうそう造園屋という言葉でヒバに関連して政治屋と言った郷土史家の肴倉弥八さんを思い出しました。昭和60年でしたかお会いして青森の林業についての色々お聞きしたことがありました。「青森の政治屋は目先の利権に走るから国の林業試験場を岩手県にとられた」「石川県には立派なヒバの研究機関があるのに、肝心の青森県には何もない 」と嘆いておられたのが印象的でした。当時で80歳、文化財保護行政功労者として、春の叙勲を受けたばかりの時でしたが、生きておられたら何と言われるか目に見えるようです。

司　会　　シンボル・ツリーについては基本的な話は出たようです。青森県の木になっているヒバはどう見ても二重丸だし、期限に間に合わないことはない。やる気があるかどうかということですね。まだ色々とあると思いますが、もう時間がなくなりました。

本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

[編集者注]　東奥日報・明鏡欄へのシンボルツリー関連投稿は、3月26日現在で東京都等六通になるが、そのすべてがトドマツには反対しており、賛成は一通も無い。
投稿内容は、「2007年10月17日」・「2008年1月8日」・「2008年1月30日」・「2008年2月4日」・「 2008年2月13日」・「2008年2月22日」に東奥日報夕刊に掲載された明鏡欄を参照して下さい。

◆◆◆ 提言 ◆◆◆

「駅前シンボル・ツリーの樹種は見直しが必要である」

◆　青森市は県都であり、その都市名は万人に豊かな自然を連想させる。青森市、県にとって自然とそこから生まれた風土文化を適切な形で情報発信することは、対外的視点に立てば戦略的に重要であるし、均質化した今日においては掛替えの無いアイデンティティーにも繋がる。それゆえ新幹線新青森駅前に植栽されるシンボル・ツリーは、一地方県都の表現として、地域象徴的な意味合いを必要条件として持つことが望ましい。自然生態及び自然景観のあるべき姿を考える当会として、シンボル・ツリーの樹種から生ずる意味と価値に鑑み、その再考を提案する。

◆　トドマツは、北方のサハリン、南千島が自生地で、青森県には全く自生しておらず、現在生育しているものは全て人工植栽されものであり、八甲田山前岳が北限のアオモリトドマツとは全く別の針葉樹である。これに較べヒバ(ヒノキアスナロ)は、日本特産種で青森県のヒバ林は日本三大美林の一つに数えられ青森県の木にも指定されおり、文字通り青森県を象徴する郷土樹種となっている。

◆　当会は、3月8日(土)青森市役所柳川庁舎に於いてシンボル・ツリーに関する説明会を開催し、当該課より選定経緯に関して説明を受けましたが、その中で、次の事が明らかになった。

1. アオモリトドマツは、候補樹種となったが管理・育成の面で困難が伴うので除外した事。
2. トドマツは、この点ではアオモリトドマツに較べて有利であり「北国・雪国」のイメージ発信に相応しいので選定した事。
3. 最も有力と思われるヒバについては、4回開催されたデザイン委員会では、一回も討議されなかった事。

◆　以上の選定経緯をふまえ、またヒバ材はヒノキと同等以上の価値を有する事から、この機会に全国に向け発信すべく、次の通り提言する。

■　新幹線青森駅前広場シンボル・ツリーの選定については、デザイン委員会の「トドマツ」選定を一つの提案として受け、最終選定の為に次の通り審議会(仮称)を開催する。

1. 委員構成　…　造園専門家、デザイン委員会委員、一般市民。
2. 開催時期　…　4月末～6月上旬を目途とする。
3. 開催形式　…　公開とする。

[注] 新幹線対策課は「何故ヒバを選択しなかったのか」について、市のホームページで4月中にその理由を公開する事を確約している。

2008年3月　青森の自然環境を考える会

日報　2008年（平成20年）5月27日　火曜日

新幹線新青森駅シンボルツリー

「トドマツ」見直しも

市、異論受け再検討

東北新幹線新青森駅開業に向け、青森市が整備する同駅東口駅前広場のシンボルツリー選定で、同市側がいったん「トドマツ」とした樹種について再検討する方針であることが二十六日、分かった。同日の市議会新幹線対策特別委員会で明らかにした。樹種選定をめぐっては昨年十二月、有識者で構成する「新青森駅周辺公共施設デザイン委員会」（委員長・北原啓司弘前大教授）が市のトドマツ案を了承したが、樹木の専門家、市民団体などから見直しを求める声が市に相次いで寄せられていた。再検討により、樹種が見直される可能性が高くなった。

青森市が東北新幹線新青森駅前に整備する東口駅前広場のイメージ図。駅舎の手前に立つ１本の大木がシンボルツリー

市議会の同特別委員会で、舘田瑠美子委員（共産）が「樹種を再考する考えはないか」と質問。都市整備部の木村敏幸新幹線対策課長が「いま一度検討・検証作業を進めていきたい」と答弁した。同課によると、シンボルツリーの植栽予定時期は二〇一〇年初夏ごろ。寺沢直樹市都市整備部長は、取材に対して「トドマツの見直しもあり得る。これから少し時間をかけて検討していく」と話した。

市側はこれまでトドマツ選定の観点として優れた冬季景観、植栽環境への適応性、維持管理が容易な点などを挙げ、「わが国に古くからある在来種で、北国、雪国を象徴し、旅情をかきたてる樹種」と説明してきた。しかし、専門家、市民の間で「北海道を代表する樹種で観光客を迎えるのか」「本県を象徴する木を選定してほしい」などの異論は消えておらず、本紙明鏡欄でも再考を促す意見がたびたび掲載されていた。市に寄せられる意見の多くは、県の木である青森ヒバ（ヒノキアスナロ）を望んでいるという。

木村課長は再検討の理由について、「三月まで市議会という公の場で市の考えを説明してきたが、なお団体や個人から複数の声が寄せられる。デザイン委員会の承認をもらい市としてトドマツに決めたが、いま一度検討しようということになった」と説明した。

南部町連続放火容疑 女の鑑定留置が終了

今年二月に南部町で起きた連続不審火で、現住建造物等放火未遂の疑いで再逮捕された無職西塚豊子容疑者（四七）＝同町斗賀水岡＝の鑑定留置が二十六日終了、県内の医療施設から八戸署に身柄を移

鶴田、板柳でひょ

県内大雨 列車に乱

県内の大雨と落雷は二十六日昼すぎに峠を越したが、青森地方気象台によると、三沢で午後零時半までの一時間雨量が五月としては観測史上最高の二九ミリに達した。鶴田町と板柳町では降ひょうによりブドウやリンゴに被

資料3　「東奥日報記事」（2008年5月27日朝刊）

青森市議会
一般質問

来月まで12校で懇談

小中学校学区再編 個別方針作成へ市教委

青森市議会は十六日、丸野達夫（政風会）渡部伸広（公明）三上武志（社民）山本治男（自民）奈良岡隆（無所属）中村節雄（政風会）布施一夫（共産）の七議員が一般質問を行った。四月に基本計画を策定した市内小中学校の学区再編について市教委は、個別実施方針作成へ向け、再編の優先度の高い十二校を対象に七月上旬までの予定で、PTA・町会役員との懇談会を順次開催していることを明らかにした。

再編の優先度の高いのは複式学級を持つ小学校十校、全学年単学級の中学校二校の計十二校。布施議員の質問に対し古山善猛教育部長は、懇談会では個別実施方針作成に向けた今後の話し合いの持ち方・進め方がテーマになることを説明。「保護者、地域住民との話し合いを精力的に行い、共通認識を築きながら進めていく」と強調した。

奈良岡議員は、市がJR青森駅周辺に建設を計画している「文化観光交流施設」の基本設計・実施設計が一社との随意契約になっていることをただした。

山田進企画財政部理事は「（以前の計画である）北国型集合住宅の設計コンペの募集要項で最優秀作品提出者を設計者とし契約することを明記している。この要項を踏まえ最優秀作品を提出したデザイン事務所と随意契約で委託した」などと答弁した。

新青森駅前広場シンボルツリー

青森ヒバに変更

東北新幹線新青森駅東口駅前広場のシンボルツリーの樹種選定をめぐり、トドマツの採用を決めた青森市に林業関係団体、市民団体などから見直しを求める声が相次いで寄せられ、市が再検討していた問題で、市は十六日、樹種を青森ヒバ（ヒノキアスナロ）に変更する考えを明らかにした。

市議会一般質問の答弁で、寺沢直樹都市整備部長が「（生育管理などに関し）東北森林管理局の全面的な支援をいただけることになった。多くの方から寄せられている『郷土青森を明確に象徴する樹種を』との要望に応えるためにも青森ヒバに変更する」とした。

市によると、樹種選定の過程で、県の木の青森ヒバ、市の木のアオモリトドマツは地域を象徴する樹種ではあるが、同駅前の「日当たりが良く乾燥傾向の強い平地」という環境特性に照らすと両方とも適応が難しいと危惧（きぐ）されるため、選択肢から外した。北国を象徴し、樹形が優れ、維持管理がしやすいなどの理由で、トドマツが最適と判断した。

しかし、トドマツの採用について、市に対し「北海道を代表する樹種で観光客を迎えるのか」「本県を象徴する木を選定してほしい」などの意見、要望が相次いで寄せられ、市は樹種を再検討。東北森林管理局に意見を求めたところ、アオモリトドマツは亜高山帯で生育し平地になじまないが、青森ヒバなら協力を惜しまない―との助言を得たという。

佐々木誠造市長は「市として絶対にトドマツということではなく本県を象徴する青森ヒバならまったく問題はない」と話している。

資料4　「東奥日報記事」（2008年6月17日朝刊）

2008年（平成20年）10月3日　金曜日

新幹線新青森駅シンボルツリー

青森ヒバ 円すい形に

青森市計画 10年春、9本植栽

東北新幹線新青森駅東口駅前広場のシンボルツリーとなる青森ヒバ（ヒノキアスナロ）について、青森市が円すい形をイメージして九本の植栽を計画していることが二日、分かった。広場への移植は二〇一〇年春を予定しており、直径十㍍の円形緑地の中心に高さ十五㍍の木を一本、その周りに五㍍の木を八本配置する。中心となる木は、同市の月見野森林公園から移植する。

東北新幹線新青森駅東口駅前広場シンボルツリーのイメージ図

シンボルツリーの樹種をめぐっては、トドマツの採用を決めた市に対し、林業関係団体などから「青森を明確に象徴する樹種に」との要望が相次ぎ、再検討の結果、青森ヒバに変更された。

樹種決定後、市は東北森林管理局の指導を受け、植栽方法などを検討してきた。植栽する木が九本となったことについて、市公園河川課の千葉洋一課長は「青森ヒバは一本では育ちにくいため、同一個所に複数本植えるべきとの助言が東北森林管理局からあった。九本がシンボルツリーとして一体となって見えるように、円すい形のイメージで配置する」と説明している。

中心に植える木については、月見野森林公園が開園した一九七八年当時、市が景観木として植えた青森ヒバの中から見栄えのいい一本を選定。移植に向け根切りし、発根を促すなど、二日までに本年度の作業を終えた。来年度は発根の状態をチェックしたり、移植先の土壌調査などを行う予定。周りに植える八本の木は、県森林組合連合会、森林組合あおもりから購入する。

また、東口駅前広場の整備に関し、東青地区の十六のライオンズクラブから市に対し、広場に設置する大型の時計を寄贈したいとの申し出があり、寄贈を受ける方向で協議中だという。

安全運動期間中 交通死者が最少

全国

秋の交通安全運動期間中の十日間（九月二十一―三十日）の事故発生件数は前年同期比4・7％減の一万九千九百六十三件、死者は19・6％減の百三十一

資料5　「東奥日報記事」（2008年10月3日 朝刊）

資料6　「シンボルツリー・ヒバ」植栽日の記録（2010年9月22日）

[写真1] 午前10時54分　月見野森林公園養生箇所より運搬し朝、現場到着、植栽地準備のため待機中。連結車ポールトレーラ長さ14m、ヒバ樹高20m、鉢直径2．5m。

[写真2] 10時54分　先端部を見るとかなり生長がよく全体を見ても球果は着生していなかった。西側背景は、新青森駅正面でクレーン車の立っている箇所が植栽地。

[写真3] 11時10分　バックホーで客土・腐葉土等を混ぜながら植栽する土盛りを整えている。直ぐ近くにクレーン車が待機しており、背景に八甲田が見える。

[写真4] 11時16分　表示板には「植栽工事中・工事名：新青森駅前広場シンボルツリー植栽工事区間：青森市大字石江字高間地内、発注者：青森市都市整備部公園河川課。

[写真5] 11時55分　植栽地が準備され、シンボルツリーを積んだトレーラー車が入ってくる。

[写真6] 12時07分　慎重に時間を掛けてトレーラーからシンボルツリーが降ろされる。

[写真7] 12時15分　植栽地の真上に移動。

[写真8] 12時18分　植栽盛土に着地。

[写真9] 12時20分　垂直に立てる。

[写真10] 15時42分　北東より撮影。

[写真11] 15時43分　南南東より撮影。

[写真12] 15時45分　メタリックな風景の中でシンボリックなヒバの姿が好ましい。ただ森で仲間と一緒に育った樹なので期待通り生長するか不安は残る。